たのもその一例ですね。

「で、ゼーンと妹のマーシヤは紐育を去る必要を感じたので、マーシヤは猿をつれて自動車に乗つて、コロンバス・アヴェニューの四階屋——姉が借りた第二の住家へゼーンと一緒になる爲に行きました。あの女達は無事に都落ちが出來るものと高をくゝつてゐたものらしいですが、私の妻がその隱れ家を見つけて行つたのが因で、終に私達の掌中に入つて了ふやうなことになつたのです。ゼーンは、鷲鷹の印章を彫つた指環が彼女を罪する唯一の證據品であると云ふことをちやんと知つてゐたので、棄てようかとも思つたが、父の遺品なのでそれも躊躇ひ、考へた揚句が、例の——洋傘の柄についてゐる總の絹糸の球に、それを隱して置くと云ふ妙案を編み出したのです。貴方方も御存じでせうが、この總の球は普通小さな木製の球に絹糸をくけて包んであります。で、ゼーンはその木製の球を取り去つて、黒い封蠟の球に指輪を埋め込んだものを、木製の球の代りに附けて、その上をそれとわからぬやうに絹糸で結つたものです。」

「それを、貴方は、如何して見つけなすつたの？」と、モートン夫人はきく。

「斯うです。ゼーンの部屋で、私は、蠟燭皿の上にあつた黒い封蠟の滴斑に目をつけました。それで見ると、封蠟が、普通の手紙の封緘に用ゐられるよりも遙に多量に溶かされたことが判りました。この女は、こんなに多量の封蠟を何の爲に使つたのだらう？——かう云ふ疑問が起りました。

「そこで、私は、自分がこの女だつたら、あの印章のある指輪を、如何して隱すだらうと考へて見ました。これが

封蠟を丸めて球にして、その中に指輪を埋ると云ふ考へをフイと私に起させてくれました。だが、縱し、さうしたにしても、その封蠟の球を彼女はどうしたであらう？　それは一寸、隱すのに容易ちやない。壺口、手提袋、さう云つた物に入れてゐては直見つかつて了ふから。その時、私の目についたのは、ゼーンの洋傘からブラ下つてゐる絹絲の總、そのまた尖端についてゐる黒い球狀の飾でした。封蠟の球を隱すには持つて來いの場所ぢやありませんか。

「私はこの推定を試して見るために、此處へ來る途中、二度もゼーンの手からその洋傘を取らうとしました。——それを持つのは荷厄介だから、私が持つてあげようと云ふ風に。ところがゼーンは周章てゝ、直に引き戻しました。そして何處までも洋傘を手離さないやうに氣を配つてゐる樣子でした。彼女のさうした動作で、いよ〳〵私の推定が正しいことが證明された譯です。その指輪の發見で、彼女はもう遁れられないものと觀念して、殘らず白狀して了つたのです。」

「まあ、可哀想にね。」と、ルス嬢は寧ろその女に同情するやうに言つた。「ねえ、おつ母さん、あの方達は許して、無事に宅へ歸してやらうぢやありませんか？　あの女達を罪に落すことは望ましいことぢやありませんわ。殊にヂユバルさんの仰しるやうに、精神的に缺陷のある人の行爲として見れば、同情していゝところもありますし、二度とあんなことをさへしなきや、穩便に事濟みにしてやる方がよござんすわね。ヂユバルさん、どうかあの人達を無事に家へ歸しやつて下さいな。」

「そりゃ結構です。」起ち上つて行かうとしながら、ヂユバル探偵は言つた。「モートンの奥さん、有體に申し上げることを許して下されば、――私はお嬢さんの憐み深い心を非常に尊敬します。では、さよなら。」

ヂヨバル探偵とグレースとは、モートンの家を辭し去つて、自動車に乘つて宿へ走らせた。

「ルスさんは佳い女ですわね。」とグレースは言つた。「私はあの人大好き。」

「ちゃ。俺が急に活動狂になつたからつて、ふうお前は嫉かないだらうね。」

「あなたー」とグレースは笑つた。「馬鹿にしちゃ嫌よ。貴方がルス・モートンさんのやうに美しい娘の事件に關係なさる時には、私何時でも嫉きますわよ。兎に角、嫉くつてことは、他の女の魅力を稱讃するために女の執る唯一つの方法ですからね。」

ヂユバル探偵は笑つた。

「同時に、それやマーシヤ・フオード等の執る方法だね。」と、彼は言つた。「たが、賞讃を表する方法としては、それにはちと缺點があるね。」

恐怖の映畫

定價　壹圓貳拾錢

版權所有

大正十三年十月八日　印刷
大正十三年十月八日　發行

譯著者　瀧村積

發行者　北原鐵雄
東京市小石川區表町九百九番地

印刷者　沖田瀧次郎
東京市小石川區戸崎町七十二番地

發行所　東京市小石川區表町一〇九番　合資會社アルス　電話小石川三五七〇番　振替東京二四八八八番

アルス・ポピュラー・ライブラリー

◆泰西文藝の一般化叢書◆

第一編
深紅の腕
アワスラー作
火野錫譯

妖艶人を魅する一歌妓に纏綿する快奇なる殺人事件を描いた「深紅の腕」其他ランドンの「愛の賊」レオナードの「恐怖の家」ボイルの「夜半の劇」メイリイの「幽靈帳」を收めた。

第二編
メイ・フラワア號
イバニエス作
村上啓夫譯

潮の香高き南國の淫蕩なる一漁村を背景として船員と放蕩兒と淫蕩魅惑なる一女性との深刻なる三角戀愛に絡まる血と涙の爭鬪を描き、芳烈の香一讀恍惚たらしむる西班牙文豪のイバニエス氏の一大傑作。

◆興味中心高級讀物叢書◆

定價各册壹圓貳拾錢・送料拾參錢

アルスポピュラーライブラリー

◆泰西文藝の一般化叢書◆

第三編
生ける屍
フローストー作
牧繁一譯
先きに倫敦警視廳犯人捜査課にあり、退いて現代英國作家の中堅たる著者が其體驗を基として奇々怪々なる殺人事件を描き戀愛と犯罪の關係を細叙せる興味津々たる一大探偵小説。

第四編
青衣の乙女
ルルクウー作
藤岡良三譯
怪殺人事件の渦中に投ぜられた一盲目の一青年が音と匂と觸感によつて神祕不可思議なる事件を解決すると云ふ高級なる讀者階級をも失望せしめざる近來稀有の好讀物である。

◆興味中心高級讀物叢書◆

定價各冊壹圓貳拾錢・送料拾參錢

アルスポピュラーライブラリー

◆泰西文藝の一般化叢書◆

第五編
惡友
ポオル・ドウ・コック作
木村信次譯
神の如く善良にして羊の如く弱い主人公が突如として現はれた惡魔の如き惡友に誘惑され脅かされて新婚生活は荒され、放蕩三昧に沈溺し零落のどん底に陷り放浪の旅先で惡友のピストルに斃れてしまふフランス人氣作者の哀切限りなきローマンスである。

第六編
軍人禮讃
バアナアド・ショウ作
坪内遺逸
市川又彦共譯
ショウの代表作で、辛辣なる諷刺、輕妙なる警句、淡々たる味はひ、しかもショウ一流の堂々たる識見、人生觀、社會觀は全卷に横溢してゐる。其他英文壇の巨匠ガルスワージーの社會劇「鳩」、佛の劇作家ブリウの「毀れ物」の二篇をも併せ收めた。

◆興味中心高級讀物叢書◆

定價各冊壹圓貳拾錢・送料拾參錢

アルス・ポピュラー・ライブラリー

續刊

恐怖の映畫（フレデリック）　瀧村積
青夫人（プールジュ）　五味拓
歌妓の秘密（オルネ）　福永煥
彼女（ハッガード）　三好十郎
百姓小屋（イバニエス）　木蘇穀
天才の悲劇（バルザック）　藤井峻

各册定價壹圓貳拾錢・各册送料拾貳錢

527
8

終